

カンボジア通信

～カンボジアー日本友好学園の生徒がやってきました!～

8/29(木)～9/8(日)にカンボジア日本友好学園の生徒が3名やってきました。スウェット(16才)、ナラ(16才)、コサル(18才)の3人です。10日あまりの短い期間でしたが、名古屋・仙台・東京・京都など日本各地を観光したり、河合塾生徒・OBとの交流を深めるなど、日本を満喫していったようです。日本で様々な経験をすることができ、より一層日本語の勉強に熱が入るのではないのでしょうか。

～以下、滞在日記を一部掲載～

8/29(木)

初めて降りる日本の地はどう見えたのだろうか。ゲートから出てくる生徒たちは、緊張気味。期待と不安が入り乱れている顔でした。夕方のウェルカム・パーティまで2～3時間の休憩。ホテルで仮眠をとったのですが、約束の時間がきても部屋から出てこない。ドアをたたいても、部屋に電話をかけてもでてこない。合い鍵でドアをあけたら、真っ青な我々をよそになんとベッドで眠っていました。初めての海外、初めての飛行機、初めての…、でとても疲れていたのですね。夕方、ウェルカム・パーティへ。多くの河合塾職員、講師が迎える中、一言ずつ挨拶。多くの大人に取り囲まれまたもや緊張?! 終了後は、それぞれのホームステイ先へ。



9/2(月)

夕方からは千駄ヶ谷の東京コスモで、日本人生徒との交流会がありました。大学生・高校生やコスモの生徒など、約40名が参加。日本人の生徒より三線(沖縄の三味線)や箏(しちりき=雅楽で使われる楽器)の演奏、バトントワリングやプロ並みのマジックなど様々な芸も披露されて、にぎやかな3時間を過ごしました。コスモ生が作ってくれた美味しいカレーを食べながら、たくさんの日本人に囲まれて、3人とも楽しいひとときを過ごせたようです。

9/6(金)

午前中はスウェットの希望で、田圃を見学。カンボジアの田圃と違って、水路の整備が行き届いている田圃風景に思わずポーズをきめて写真撮影。稲の高さがそろっていることが不思議だとか。カンボジアでは水の行き届くところとそうでない所があり、育ち方がバラバラになるのだそうです。午後は名古屋コスモでフェアウェルパーティが開かれました。コスモ生が中心になって、前日から仕込んでいた料理を含め多くの料理をつくってくれました。カンボジアの3人も負けじと茄子のにんにく・唐辛子炒めを披露。同年代同士、すぐに会話を交わすようになり、楽しい共同作業ができたのではないのでしょうか。食事の後は、日本人生徒側からは、歌のプレゼント。カンボジアの3人も、大勢の前で少々照れながらでしたが、カンボジアの歌と踊りを披露してくれました。ウェルカム・パーティの時とはうってかわった、その打ち解けた顔が、今回の交流の成功を物語っているようでした。



※この交流にあたり、ホームステイ先の方々をはじめ、各地河合塾の方々には大変お世話になりました。温かい受け入れをしていただきまして、本当にありがとうございました。

◆今回のホームステイ実施にあたって

国語科講師 牧野 剛

個人としては、仏領インドシナ時代、60年代のベトナム戦争期、ポル・ポト時代等カンボジアには、歴史・社会・政治・経済に興味を持っていましたが、自衛隊のP・K・O(平和維持「活動」)名目によるカンボジア派遣が無く、僕らがそれに反対して「予備校教師の会」を立ち上げなかったら、そしてコン・ポーンさんや阿木さん(河合塾英語科講師・東京にあるNPO「カンボジア教育支援基金・CEAF」の代表でもある)と深く関係することがなかったら、この間の行動は形を変えていただろう。

河合塾内に立ち上げた「河合塾カンボジア教育支援委員会」は2000年の記念の意味を込めて、

- ①河合塾のイス、机をカンボジアに送る
- ②チョーク等の文房具を送る
- ③支援のために基金を募集する

を決定した。また、河合塾のメンバーの数回に亘るカンボジア現地への視察や文具運搬によって、

- ①植林プロジェクト等の立ち上げ
- ②卒業試験対策(高校入学資格テスト)の模試作成
- ③学園生徒の日本ホームステイ等

をも行うこととなり、今回3名の生徒の来日ホームステイとなった。

一応成功裏に終わったことと、皆さまの甚大なる協力に御礼申し上げます。また、椅子・机などの運搬の続行や、植林プロジェクト、予備校での放置自転車の運搬、理科実験道具の運搬に加え、さらなる支援にむけてなど、河合塾内支援グループとして腰を据えて、この仕事に取り組む決意であることをここに表明しておきたい。

高等部開校!!

2002年10月1日、日本友好学園の高等部が開校しました。3クラス、160名前後の生徒が通っています。この校舎は、佐賀県のNPO「カンボジア教育支援フロム佐賀」の積極的な働きかけにより建築資金を集め、約5ヶ月の工事で、中等部校舎のとなりに完成されたものです。

中等部からの受験者184名中、156名が合格し(ちなみにホームステイで来日した3名は全員合格でした!)、近隣の中学の合格率が15~20%であったのと比較すると素晴らしい好成績でした。8割もの合格率を喜ぶと同時に、不合格者たちのサポートも考えていかなければなりません。友好学園の9割の生徒は貧しい農村の出身で、文房具や服、食糧を手に入れるのも苦労する家庭の子供たちです。不合格ともなれば、家に残り家の仕事を手伝うか、畑や単純の肉体労働で日銭を稼ぐ、という選択しかないのです。

友好学園の図書館・校舎設備・フェンスなどはODAからの資金提供により建設中です。雨季には水びたしになってしまう校庭の整備、近隣の農家の牛・水牛・豚がキャンパスに侵入して校庭が荒らされるのを防ぐ為のフェンスづくり等を行うもので、もうすぐ完成する予定です。周辺にはこれだけ施設が完備した学校はありません。英語・フランス語の先生はもちろん、日本人派遣教師が常駐しているところは珍しいのです。

現在は雨季なので、乾季に使っていた道は水に沈んで通れなくなるほどで、主要道路の他は巨大な湖が出現しているような状況。(膝のあたりまで水につかるようで、一時的に船着き場もできる!!)

苦労して学校まで通う生徒のことと思うと、早く水がひいてほしいのですが、水が少ないと田植えができないこともあり、なかなかものごとは単純にはいかないですね。*

記事協力：現地ボランティア日本語教師

●来年4月から使用される高校の地理の教科書『高等学校現代地理A』(清水書院)に、日本友好学園の記事が掲載されることが決まりました。

カンボジア関連書籍紹介

『アンコールからのメッセージ』を読んで

世界史科講師 金貞義

毎年3月になると、リング村の日本友好学園に河合塾の元塾生や同僚の講師たちとワイワイガヤガヤ言いながら通っている。そのワイワイガヤガヤのなかで、いつも議論になるのが、「なんのためにカンボジアの学校を支援するのか」という話題である。本当のところどうなのかなと思っているうちに、日本に帰ってきてたまたま見つけたのが、『アンコールからのメッセージ』という本だった。この本は、貴重な写真とともに、最新の発掘成果が実に分かりやすく整理してあり、「商売柄」カンボジアの歴史を理解するのに大いに助かる一冊である。

しかし、私がこの本を通じて一番なるほどと思ったのは、「現地に学ぶ姿勢」という章での「この民族の固有な文化遺産を世界に向かって説明できるのは、誰よりも現地に暮らすカンボジアの人々である。…中略… 日本の専門家・研究者のなかには、稀ではあるが遺跡などの文化遺産をその地域から切り離し、カンボジア人はできないから俺たちがやってやるという日本上位主義の人達がいる。これはいけない。…中略… 現地の村人や地域住民から学ぶことがたくさんある」という著者のカンボジアに対する姿勢である。私たちは「なんのためにカンボジアの学校を支援するのか」という議論を行っているときに、カンボジアの人々のことを考えて議論しているのだろうか。つい自分たちだけの立場で議論してきたのではないか。実にいろいろなことを考えさせられた一冊であった。

『アンコールからのメッセージ』(山川出版社・定価1700円(税別))

著者はアンコールの遺跡保存修復に20年間携わってきた上智大学教授石澤良昭氏。写真はアジアを中心にフォト・ルポルタージュを手掛けるベテラン写真家大村次郎氏。

新校舎の様子



今年度募金使用計画 交流プロジェクト : 800,000円
植林プロジェクト : 100,000円
もの育てプロジェクト : 100,000円

○交流(カンボジアより生徒3名、通訳1名来日:8/29~9/8)プロジェクトにおける募金使用報告

<予算> 1,018,253円(募金より800,000円/カンパ218,253円)

<使用額> 859,954円(渡航関係:464,747円/国内交通費:229,400円/食事代:85,664円/その他:80,143円) ※残金158,299円は募金へ

募金報告(～02.11.06)

◆募金額 1,492,158円(～02.09.01)

◆支出 800,000円

◆募金額 850,457円(02.11.06現在)

ご協力のお礼<敬称略>(～02.11.06)

<河合塾>

全校舎/各部署(文房具収集・物資支援)
松戸校/立川校/千葉現役館/千種校(赤本・参考書リサイクルバザー実施)
津田沼校/町田校/名駅校/千種校(イベント実施)
東京COSMO/名古屋COSMO(交流会実施)

<その他>

愛知・東邦高校(募金)
愛知・名鉄文化レジャー事業本部(明治村入場券提供)
東京・つばさ証券/兵庫・城巽小学校/神奈川・鎌倉第二小学校/
青森・青森明の星高校/大分・大分明野中学校(文具提供)
愛知・中京コカ・コーラボトリング株式会社/愛知・中京大学(机提供)

<個人>

碓井公二/熊崎さと子/望月小百合/渡辺絵里/渡辺/匿名希望(文具提供)
河合弘登(物資提供)
青木和子/後藤禎典/前島良雄/牧野剛/三浦武(印税提供)
河田誠/三浦愛三(模試作成)
大友允/大中原豊/佐藤求/吉田由香/高橋建吉(物資整理、他)
石川和央/伊藤千枝/内山雅彦/江沢郁子/栗山智恵子/高橋建吉/竹村彩/
中山裕太/西田葵/森本英之/森本友樹/宮坂徹(植林)
石川晶康/岡田昌也/金貞義/佐々木幸/穴戸篤/竹園/仲保昌子/牧野剛/
丸山悦子/山崎瑛二/山本雅博/渡辺嘉昭(交流ホームステイ)
ご協力ありがとうございました。

河合塾カンボジア教育支援会

管轄：総政策部
事務局：進学事業本部教務企画部内
メンバー：針田啓子(メディア教育事業部)
杉本尚子(千葉現役館)
大河原智子(立川校)
藤倉雅之・森頼亮(教務企画部)
鈴川隆弘(教材開発部)
大脇淳(近畿地区教育部)
講師アドバイザー
阿木幸男・石川晶康・金貞義・牧野剛
〒464-0850 名古屋市中種区今池2-1-10
河合塾教務企画部
河合塾カンボジア教育支援委員会
<http://www.kawai-juku.ac.jp/>